

部

長

第一局

第二局

第三局

旗

一五八

一

逃航区域外逃航ニ付上申

本職初瀬朝日富士宮古ヲ率ヒ別紙航
日程及行動計畫ニ依リ逃航区域外逃航
致度候間艦隊職責勤務令第五條ニ依
リ提出候也

明治三十五年七月七日

常備艦隊司令長官代理内田正敏

海軍少令部長子爵伊東祐亨殿

海令秘第 一六九 号 一

海軍

航行日程及行動計畫

程航泊所在里教航海襲行動計畫

八月十六日	八月十七日	八月十八日	八月十九日	自八月二十日	自八月二十一日	自八月二十二日	自八月二十三日	自八月二十四日	自八月二十五日	自八月二十六日	自八月二十七日	自八月二十八日	自八月二十九日	自八月三十日	自八月三十一日
青森	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦	新浦
着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着

五六六 軍事調査

艦隊運動、搜索運動、警戒航行基本演習
 若浦、新浦、宮古、石巻、大船、安部、等、回航、上、再、出、港、帰、旗、艦、元、復、艦、隊、永、留、關、之、演、習

六三七

陸戰隊三関之諸演習
 艦隊小隊對抗運動

軍事調査及聯合測量

一〇一五

海軍中艦隊運動、搜索及追尾基本演習

九月一日	自全二日	至全六日	全七日	全八日	合計
隱岐島前着	泊	後	着	着	
三四〇			一三〇	一四〇	二二〇
三八					二八五

水道閉塞演習
 隱岐島前着後現在石炭、都合ヲ見テ高速
 力艦隊運動

軍令部

部

長

本隊司令第一號

三十五年七月六日
於横須賀旗艦初瀬

第一局

一 本隊艦隊行動豫定表ニ準シ明後八日午後一時當

第二局

港ヲ出發ス其艦隊番號及速力舵角左ノ如シ

(一) 初瀬 (二) 富士 (三) 朝日

第三局

二 山田港ニ至ル途上ニ於テ九日正午迄ハ適宜艦隊

運動ヲ行ヒ九日正午ヨリ十日午前迄搜索運動ヲ施行ス

軍令部

三

右搜索運動ハ凡テ大艦隊運動程式草案ホニ則リ其

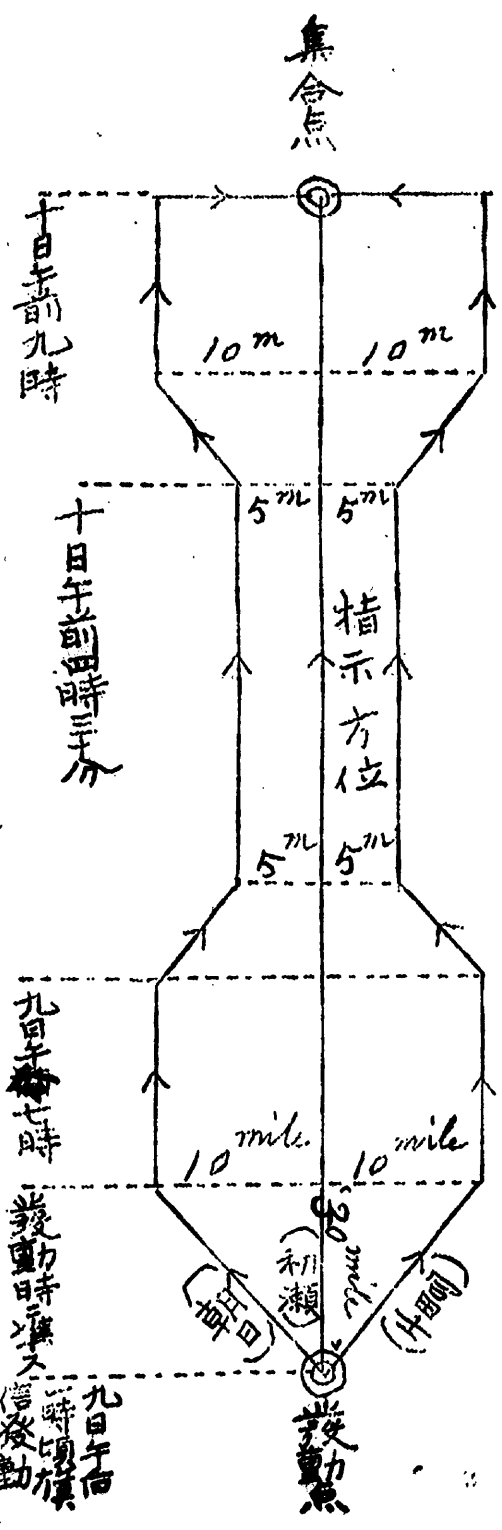
雜種信號五二五三及軍艦信號書ニ旗信

號追加ハ「V」乃至「V」等ヲ以テ臨機之レカ實

施ヲ命令スト雖モ念ノ為メ其運動ヲ豫定シテ左

四 天候其他ノ異変ニ依リ搜索運動中各艦集合ノ時期

(註) 當日搜索運動ノ目的ハ單ニ隊行運動トシテ搜索列ヲ正確ニ保持スルニ習熟スルニテ各艦ハ基準艦ノ速力ニ準シ其速力ヲ加減シ天側推測等ニ依リ其艦位ヲ正シ搜索列ヲ一橫線ニ保持ツカセラヌ要ス十日午前九時基準艦ニ向ツテ集合スルニ各艦ノ艦位相一致スレハ良好ノ運動ヲ遂ケタルモノトス



ニ後ルコトニ時間以上三至ハ各自山田港ニ航進スヘシ

五、右搜索運動中夜間各艦ハ探海燈ヲ以テ時々適宜ノ

通信ヲ試ムヘシ

六、曩ニ令達シタル各艦ノ部署教育ハ来ル七月十九日迄

便宜續行スヘシ今二十日以後ニ至ル時々旗信ニテ一斉

ニ般操練ヲ命シ又本職ハ臨時各艦ノ操練ヲ臨檢

スルコトアルヘシ

第二局 濟

第一局

瓜生

旗本 一〇五號

永田

報 告

旗本第一〇五號、二二二旗信號、別冊、通、追、加、高、艦、隊、用、別

條、次、改、及、報、告、候、也、
明治三十五年七月二十五日

常備艦隊司令長官 堀内正敏

海軍令部長 子爵 伊集院 彦 彦 彦

海 軍

積

二填信号追加

信号	掲燈	遠隔	信文
丁0			敵見ユ(アリ) 同時ニ敵船信号ヲ以テ 其隻数ヲ元スコトアリ
丁1			敵ヲ見ス(ナシ)
丁2			地平線上(指示方位)ニ煤煙ヲ認ム
丁3			地平線上(指示方位)ノ煤煙(艦影)ハ敵(敵艦隊)ナリ
丁4			近ツク船ハニレク敵ナリ
丁5			敵ノ艦隊(指示隻)吾艦隊航路右前方ニ見ユ 同時ニ方位ヲ示スコトアリ
丁6			敵ノ艦隊(指示隻)吾艦隊航路左前方ニ見ユ 全右

ㄥ 3	ㄥ 見	ㄥ 1	ㄥ 0	丁 9	丁 8	丁 7
敵(指示時刻)指示地点附近ニアリ(指示方	敵(我艦隊)現位置ヨリ指示方位(指示海里)ニ在リ	敵(艦隊)吾艦隊(後方)指示海里ニ在リ今右	敵(駆逐艦)水雷艇(指示隻)吾艦隊航 路(左前方)見ユ今右	敵(駆逐艦)水雷艇(指示隻)吾艦隊航 路(右前方)見ユ今右	敵(偵察艦)一隻(指示隻)吾艦隊航 路(左前方)見ユ今右	敵(偵察艦)一隻(指示隻)吾艦隊航 路(右前方)見ユ今右

	L 8	L 7	L 6	L 5	L 4	
	敵ノ兵力ハ今逐次ニ揚クル艦種艦数ナリ(國)	敵ハ吾艦隊航路ヲ右ヨリ左ニ(指示方位ニ)横切ル	敵ハ吾艦隊航路ヲ左ヨリ右ニ(指示方位ニ)横切ル	敵ハ我ヲ避ケ(指示方位ニ)退却ス	敵ハ我ニ(指示方位ニ)向ツテ来ル	位針路ヲ取レリ
種	艦種 A F ... 駆逐艦又ハ水雷艇 D C ... 軍艦 ... 二等巡洋艦以下 ... 戰艦及一等巡洋艦 艦種艦数ノ旗ヲ加ヘテ掲ク C D F G ... 艦信号旗					

又

N 7	N 6	N 5	N 4	N 3	N 2	N 1	N 0	L 9
ニ向ツテ急進セリ	敵ノ水雷艇(指示隻)指示方位ヨリ其隊(艦)	敵ノ速力ハ……海里ト認ム	敵陣形ハ指示陣形ナリ <small>(艦隊運動程式ノ陣形変換信号ヲ同時ニ示ス)</small>	敵ノ旗艦ハ……號ナリ	敵艦隊ノ編制ハ……隊区分サレアリト認ム	敵ハ水雷艇(指示隻)ヲ伴ヘリ	敵ハ駆逐艦(指示隻)ヲ伴ヘリ	敵ノ主力ハ戦艦又ハ等巡洋艦指示隻ナリ <small>敵艦ノ船名信号アルトキハ逐次ニ之ヲ示スコトアリ</small>

R 7	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	R 0	N 9	N 8
敵駆逐艦(指示隻)港外ニ出ツ(指示方位ニ進ス)	敵艦隊(指示隻)港外ニ出ツ(指示方位ニ航)	敵掃海ヲ試ミントス	敵掃海ヲ試ミントス	敵ハ反装水雷ヲ試ミントス	敵ハ陸戦隊ヲ上陸セントス	敵駆逐艦(水雷艇)吾ヲ追尾セルモノ、如シ	敵駆逐艦(水雷艇)吾ヲ追躡シツ、アリ	敵艦隊吾ヲ追躡ス	敵ハ………シツ、アリ アルカ如シ

3

1128

S 5	S 4	S 3	S 2	S 1	S 0		R 9	R 8	,
						右ノ四信号ハ主トシテ封鎖ノトキニ用ユ	敵ハ港内ニ入レリ	航進ス 敵ノ水雷艇(指示隻)港外ニ出ツ(指示方位ニ)	航進ス

對敵

▽5	▽4	▽3	▽2	▽1	▽0	S9	S8	S7	S6
敵ノ右方ヨリ其背面ニ迂回セヨ	敵ヲ左舷ニ見テ通過セヨ	敵ヲ右舷ニ見テ通過セヨ	當隊(指示隊)ト共ニ敵ヲ攻撃スル如ク運動スルニ	當隊(指示隊)ト共ニ敵ヲ攻撃スル如ク運動スルニ	ヲ取ル				

54

Y 5	Y 4	Y 3	Y 2	Y 1	Y 0	▽ 9	▽ 8	▽ 7	▽ 6
敵ヲ追蹙シ好機ヲ俟テ敵撃ヲ致ス	敵ヲ指示時刻(指示地点附近)迄追撃(逆撃)	敵ヲ長驅スルコト勿レ	敵ヲ追窮シ其行ク処ヲ確シヘシ	敵ノ退路ヲ遮断セヨ	敵ノ彈着距離以外ニ位置ヲ執リ適宜運動セヨ	今ヨリ接戦セヨ(接戦トハ一キロ突)以内ハ砲戦ヲ云フ	今ヨリ遠戦セヨ(遠戦トハ四キロ突以外)砲戦ヲ云フ	戦距離ノ標準ヲ………キロ突内外トス	敵ノ左方ヨリ其背面ニ迂回セヨ

	y 9	y 8	y 7	y 6
	追蹙セル敵ヲ努メテ指示方向ニ誘致セヨ	當隊(指示隊(艦))ノ退却ヲ掩護セヨ	敵ノ駆逐隊(水雷艇隊)ト觸接ヲ保テ	敵ト觸接ヲ保續ス

5

(続) 〇〇	聯合陸戰隊ヲ編制ス各艦ハ其既定部署ノ一舷直陸戰銃隊及砲隊ヲ出セ
〇一	聯合陸戰隊ヲ編制ス各艦(指示艦)ハ二箇小隊(指示箇小隊)ノ陸戰銃隊ヲ出セ <small>小隊長二名、信号兵二名、看護一名、附之レニ屬ス</small>
〇二	聯合陸戰隊ヲ編制ス各艦(指示艦)野砲二門(指示門)ヲ出セ <small>工作兵若干之レニ屬ス</small>
〇三	指示艦ヨリ第一、大隊長ヲ出セ <small>大隊副官、傳令、信号兵若干之レニ屬ス</small>
〇四	指示艦ノ艦長(指示職)ニ陸戰隊指揮官(指示職)ヲ命ス
〇五	指示艦第一、中隊長ヲ出セ <small>中隊下士、給与下士之レニ屬ス</small>
〇六	指示二艦ノ小隊ヲ以テ第一、中隊ヲ編制ス

56

	ク一三	ク一二	ク一一	ク一〇	ク〇九	ク〇八	ク〇七
	陸岸ハ抵抗ナシ	陸岸ニ敵アリ	陸上ノ敵ハ上陸点ノ指示方位(指示陸軍)ニ在リ	示方位ノ海岸(ニ上陸セヨ) 聯合陸戦隊(指示艦ノ陸戦隊)ハ指示地点(當艦ヨリ指	クハ指示地)ニ集合セヨ 聯合陸戦隊ハ直ニ(指示時刻迄)旗艦(指示艦若	揚陸所ヲ築造スルノ準備ヲ為セ	敵前上陸ノ準備ヲ為セ

軍令部

部長



本隊日令

第一局
第二局
第三局

號

第三局
文庫
副官

細谷

一 本隊 於七月十八日 於室蘭初瀬 内田常備艦隊司令官代理
号速力等前、如シ

二 出港後旗信列ヲ解クト今時各艦單獨ニ速力及石炭消費試驗ヲ施行シ青森ヲ入港豫定

但シ惠山崎ヨリ大間崎迄間ハ潮流強キヲ以テ右試驗航路ヨリ除クヲ要ス

三 青森湾航泊中本隊作業ノ豫定別表ノ如シ此豫定ハ已ムヲ得サルノ外晴雨ニ拘ルズ決行スルモノトス

四 青森湾内碇泊中ハ特ニ指定シアル外下士卒ノ上陸ヲ許ス

五 今因、艦砲射撃ニ於テ各艦一樣ニ準據スルキ事項左ノ如シ
(一) 重砲、射距離 二千五百米突乃至
(二) 輕砲、射距離 一千五百米突

- (一) 甲種水雷發射距離
二千五百米突乃至
二千五百米突
- (二) 乙種水雷發射距離
六百米突乃至
七百米突
- (三) 發射本艦速力
十二節
- (四) 動的速力
六節
- (五) 發射水雷數
甲種水雷 二發以上
乙種水雷 三發以上
- (六) 艦載水雷艇ノ發射ハ一艇ニ付四發以上トシ其速力射距離等ハ各艦任意トス
- (七) 右艦砲射數及水雷發射ノ施行地域ヲ別圖ノ如ク豫

六、今面、水雷發射ニ於テ各艦一樣ニ準據スキ事項左ノ如シ

(三) 射擊本艦速力
八節

(四) 發射彈數
年額ノ約四分一

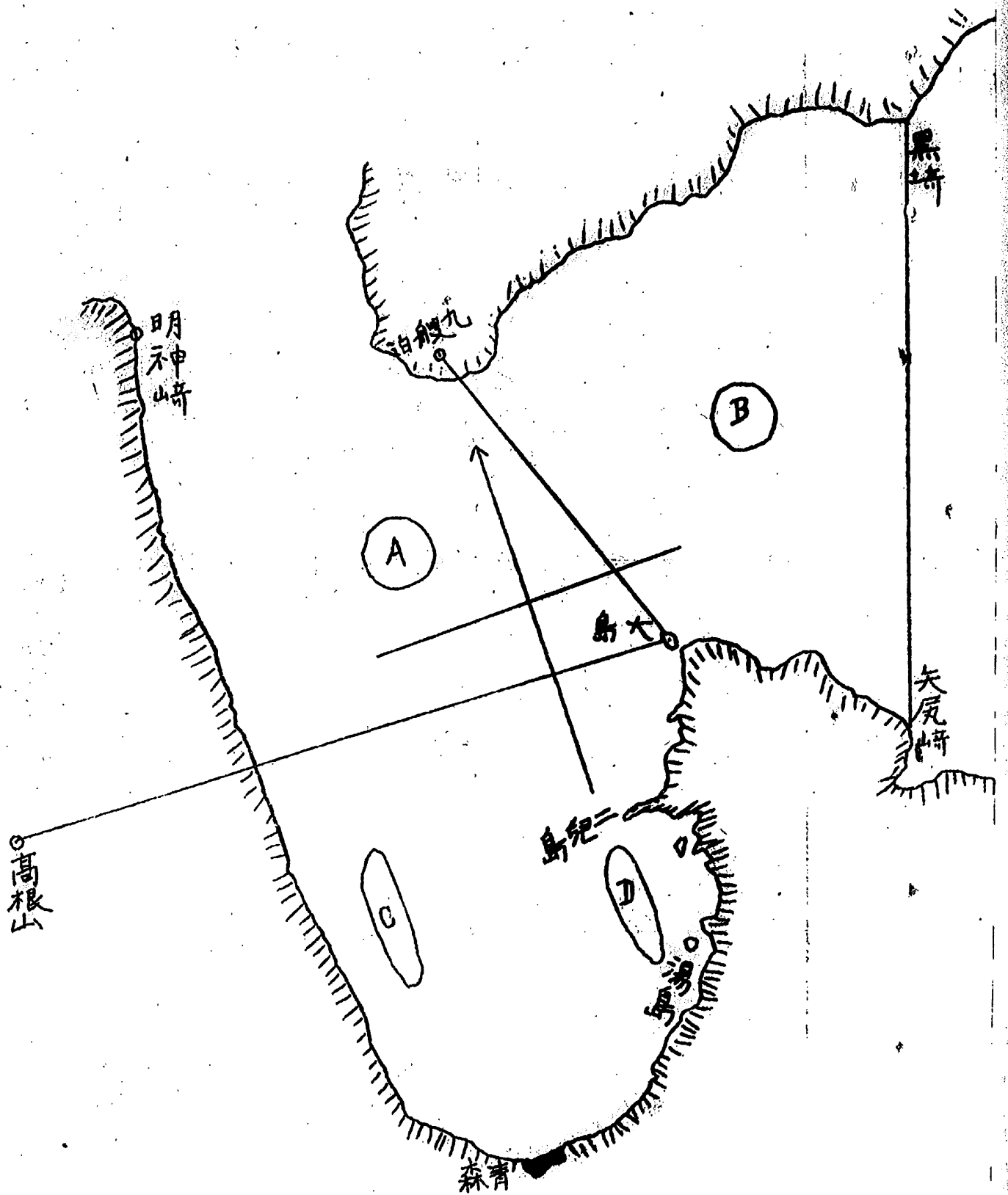
(五) 前後ノ監的
凡テ側方監的

自七月二十日
至八月十五日
本隊作業豫定表

月日	艦名	所在	初瀬	朝日	富士	宮古	記事
七月廿一日	全廿一日	青	週課通り				半舷上陸ヲ許ス
全廿二日	全廿二日	青	各艦一般操練				以間余時アル各艦適宜内筒砲射撃ヲ施行ス
全廿三日	全廿三日	青	旗信一般操練				コト
全廿四日	全廿四日	青					
全廿五日	全廿五日	青	(午前)右全 (午後)豊嶋海戦記念端舟競漕				競争ニ關スル事項ハ委員ヲ設ケテ之ヲ定ム
全廿六日	全廿六日	青	(午前)将校兵棋演習其他週課通り				
全廿七日	全廿七日	青	週課通り				半舷上陸ヲ許ス
全廿八日	全廿八日	青	各艦一般操練若ハ内筒砲射撃				
全廿九日	全廿九日	青	艦砲射撃 (A)	水雷發射 (B)	水雷發射 (C)	水雷發射 (D)	
全三十日	全三十日	青	右全 (A)	右全 (B)	右全 (C)	右全 (D)	以間各艦青木林
全廿一日	全廿一日	青	水雷發射 (C)	水雷發射 (D)	内筒砲射撃 (B)	艦砲射撃 (A)	否トハ隨意トス
八月一日	八月一日	青	右全 (C)	右全 (D)	右全 (A)	艦砲射撃 (B)	

全二日	青	〔午前〕將校艦載水雷艇ヲ艦隊對抗運動其他週課通り			半舷上陸ヲ許ス
全三日	森	週課通り			半舷上陸ヲ許ス
全四日	大	小銃及野砲射撃並ニ艦載水雷艇水雷發射			曾早朝大湊通航ス 砲射撃ハ射的地ノ都合ニ依リ深更ハル コトアルハシ
全五日	湊	四季演習			演習後函館 面航ス
自全六日 至今八日	青森 灣	四季演習講評 其他週課通り			半舷上陸ヲ許ス
全九日	函	週課通り			半舷上陸ヲ許ス
全十日	館	室蘭ニ因航途上適宜艦隊運動			入湯上陸ヲ許ス
全十一日	室	石炭搭載	艦砲射撃 其他	艦砲射撃 其他操練	入湯上陸ヲ許ス
全十二日	室	艦砲射撃 其他操練	石炭搭載	艦砲射撃 其他操練	入湯上陸ヲ許ス
全十三日	室	艦砲射撃 其他操練	石炭搭載	艦砲射撃 其他操練	入湯上陸ヲ許ス
全十四日	蘭	航海準備其他適宜			半舷上陸ヲ許ス
全十五日	蘭	航海準備其他適宜			半舷上陸ヲ許ス

(備考) 小銃及野砲射撃並ニ石炭搭載ノ都合ニ依リ八月九日以後先
ツ室蘭ニ至リ次ニ函館ニ廻航スルユトヤルハシ



軍令部

第一局

第二局



旗普第一三七六號
從來機関取扱教範各條項ニテ往々遊行サレサルモ
有之哉被存機関保存上遺憾不少存候ニ付便
宜爲別紙印刷配附致候條實施方勵行相成
度共段申進候也

明治三十五年七月二十五日

加藤常備艦隊參謀長
殿

追テ新造艦艇ニテ機関取扱上該教範ニ掲クルヲ
必要ト思考サレモ若ハ改正ヲ希望サルモ有之候
公逐一理由ヲ附シ御申出相成度共段申添候也

		施行時期 船舶機関取 扱教範條項		船舶機関検査試験時期及機関日誌記註重要事項 取扱萃	
毎日	第二五條	實施事項		主機回轉、汽力又ハ人力ヲ幾分ニ回轉シテ位置ヲ換ヘ 又滑車ノ運動ヲ試ムコト	
△	第八七條			罐水性狀試験紙ヲ以テ日々一回ニ試験ヲ爲ス汽走中ハ 此外毎四時密度ヲ試験ス	
△	第八三條			罐水ノ更換、多少ニ拘ラス之ヲ爲シタルトキ其密度ト 理由トシテ記註スルコト	
△	第八四條			罐水ヲ使用水準線附近ニ保チタルトキ其理由ヲ記註スルコト	
△	第九五條			安全弁ハ汽走中ハ毎直一回揚弁機ヲ以テ少シク擧揚 シ其動作ヲ試ムコト	
△	第百十五條			罐内ニ注入シタル曹達量ト其際使用中ノ罐水全 量トノ割合ヲ毎二十四時ニ通算シテ記註スルコト	

毎日	第百五條	嚴寒ノ節上甲板ニ曝露スル補機ノ溜水凍結ノ爲メ 毀損スルヲ防ク手段
全	第百五條	蒸化器ノ蒸化量ハ其内部掃除後一週間連續 使用シタル平均量ヲ試定シ記註スルコト
全	第四十二條 第四十三條	航海中常ニ機會ヲ逸セスレテ諸速力ニ於ケル各汽筒ノ 膨脹程度并ニ汽衣汽ノ適度ヲ試定完敷ニスルコト
全	第百七九條	換氣装置ノ設備アル炭庫屢々檢査シテ有效ニ保 子強一通風使用ノトキ若ハ雨天其他閉鎖ヲ必要トス トキ外開キ置クコト
全	第百五條	諸機械及唧筒ノ弁嘴ハ碇泊中日々一回ノ開閉ヲ 試ム但シ之ヲ爲ス能ハサル個所ハ符札ヲ附シ置クコト
全	第百五條	航海中常ニ機會ヲ逸セスレテ石炭ノ燃燒度及各 速力ニ對スル適當使用罐數ヲ試定スルコト

	毎週	第八五條	満水シタ汽罐ハ其頂部ニ附着セル小嘴ヲ毎週
			少毛ニ面開キテ水高ヲ確メ且ツ水素ノ聚積ヲ防クコト
全	第九五條	安全倉ハ碇泊中ハ毎週一回動作ヲ試ムコト	
全	第四百三條	補助機動作部ハ毎週二回以上汽力又ハ人力ニ藉リテ	
		動作ヲ試ムコト	
全	第四百五條 第四百九條	機動操舵機及管制機「テレモーター」並附属通	
		信機操舵軸心節鏈等ノ動作及状態ヲ毎週一回檢	
		査シ又出港際ニテハ揚錨前ニシテ試ム	
全	第四百七條	複底用ノ事業服ハ赤鉛毒ヲ除ク爲メ少クモ毎週一	
		回洗濯スルコト	
全	第四百八條	換氣装置ノ設備ナキ炭庫又設備アルモ出入ニヨリ具	
		エサレモノハ少クモ毎週二回以上(雨天ヲ除ク)全甲板洗ヒ	
		庫蓋ヲ徹シ午後終業前之ヲ開ツ	

又

每週 第二百七條	機房室上部並煙筒座周圍欄間格子蓋類 ハ每週一回空動カレ固着セシメサルコト
全 第二百七條	疏水主管ハ少クモ每週二回以上海水ヲ輸通シテ洗滌 スルコト
全 第二百七條	防水装置ニ於ケル戸鼻ハ每週二回海水ニ通スル諸餘 嘴ハ每週一回開閉ヲ試ムルコト
每月 第二百七條	水廠機、附属装置及要具ハ屢検査シ毎月一 回以上之ヲ動カシ梁柱ノ固着ヲ防キ其整備ヲ確ル
全 第二百七條	砲塔及床板並其下ニ在ル轆輪、轆輪軌等ヲ檢 査シ銚ノ擔床等ヲ潤滑シ動作ヲ試ムルコト
每季 第二百七條	給水亟内部及保護亜鉛板ヲ每季ノ末月検査 スルコト
全 第二百七條	汽罐内部及外部ヲ綿密周到ニ検査ス若シ之ヲ

全	第七九條	爲ニ能ハサルトキ、其理由ヲ記註スルコト
全	内汽管及切目検査	
全	第四百五條	煙筒揚卸機、動作ヲ試ム、但ニ現ニ揚ケアルモノ、其ニ ヲ揚卸ス
全	第三百條	水力電力ヲ利用スル砲架、砲塔、諸装置ヲ精密ニ 検査シ、其有効ノ状態ヲ確ムルコト
全	水ノ教書	水用水罐、並同水澆器ヲ検査シ、水ヲ取替フコト、但 シ水ノ余儀ナキ場合、外蒸溜水ヲ用ヒ、礦油及軟石 硯ヲ入ル可シ
每六月	第三條	汽筒、吸錫、滑傘、膨脹傘、軸擔床、接合錫、擔 床、軸接錫、螺釘、軸及接合錫、螺釘、其他運 轉ノ良否ニ關スル諸部ハ、少クモ六月一回検査シ 其修補ノ欠損ヲ修補シ置クコト

3

全	全	全	全		全	全	全		全	全		每六月
第百五條	第百六條	第百七條	第百八條		第百九條	第百十條	第百十一條		全	第百十二條		第三條
鋼鉄船体内板、樞梁、複底、防水區隔、石炭庫	總テ補機、減一、餘分解検査	諸唧筒及附属、餘、餘咄等検査	放射機、其他船底、排水ニ備ル装置分解検査	成績ヲ確ムルコト	蒸化器、蒸釜、鍋、鍋、冬夏ニ於テ効力ヲ試験シ	蒸化器ヲ分解シテ内部ヲ精密ニ検査ス	濾水器、劑放濾材料検査並其處置	分解検査	通信機、テルテル、回轉計（電氣装置ノモモ會ム）等	補機ノ汽筒、吸錫、滑傘、其他必要ニ接合部分解	洩ノ徵アルトキハ何時ニモ検査修補ヲ爲ス	觸面復水器、管ハ少クモ毎六月一回検査シ、若シ漏

全	第百五十五條	等ノ状態春秋二季ニ於テ定期検査
全	第百四十四條	疏水主管ノ内部検査
全	第百四十一條	人力旋回大砲床板下轆輪ノ床板ヲ舉ケ掃除潤滑ヲ行
全	第百三十條	艦載水雷艇及汽艇水ノ試験
全	第百二十九條	主汽罐水ノ試験(製造後二年經過モ)毎六ヶ月乃至九ヶ月ニ施行
毎一年	第七十五條	厂力計試験
全	第百五十五條	推進器回転ニ要スル重量試験ヲ入渠ノ時機ニ於テ行
全	第百五十一條	蒸化器水ノ試験
全	第百零八條	気蓄器、分離器、装気柱、気管及一搾機ヲ全厂力ヲ試験ス(此等ノ諸部施ス水ノ試験ハ總ニ其教範ニ依ル)
全	第百零六條	艦属品検査、螺旋ノ部腐蝕部或ハ銹等拔キ

4

全	全	全	全		全		全		全	屢々		
第百零六條	第百零九條	第百零六條	第六十四條		第四七條		第三五條		第廿三條	第十七條		
消火機ヲ検査手入シテ常ニ最モ有効ニ状態ニ保ツト	蒸化器百五十時間以上使用シタルトキ内部掃除	蒸溜器及附属唧筒ノ状態並ニ効力ヲ確カスルコト	汽罐受熱面ノ油滓掃除	中及碓泊中ニ於テ	計器ニテ各要部中心線若クハ巨離等ヲ計ルコト運轉	ヲ使用セサル場合	抽気機吸水及吐水弁ノ蓋ヲ開キ置クコト(当分汽機	油性物ヲ除去ス	護謨管ヲ使用シタル部ハ時々開放シ之ニ粘着セル	注油器、透油器、油管、検査、整頓、シ置クコト	之ヲ爲シ終リ後直ニ保護物ヲ回復シ納メ置クコト	差シ精密ニ手入シテ爲シ且ク嵌合試験済マサルモノ

全	第五百七條	補助給水機並其装置、主機運転前試験し其有 交ハル状態ヲ確カムルコト
全	第五百七條	船体、鋼鉄部ハ屢々検査ヲ行ヒ銹腐ヲ發見スル 毎之レヲ削リ去リ塗料ヲ塗ルコト
全	第五百七條	炭庫内ノ防水戸時々検査シテ動作ヲ試シ其諸要 具ニ獸脂ヲ塗テ石炭搭載ノ為メ傷害セシム防ク
全	第五百六條	空氣機探機ハ使用後汽機、唧筒、分離器、装置 機、氣蓄器等ヨリ悉ク水ヲ吹出サシムルコト
全	第五百五條	發電機ノ各部ニ於ケル隔縁ハ時々試験シテ其完全 ヲ確カムルコト
全	第五百五條	排水管及附属弁嘴ヲ検査シ其緊密ヲ確カメ其 内部ニ水ヲ溜滞セシメ置カサルコト又灰燼放射水管 屈曲部ノ蓋ハ屢々検査シ其磨耗甚シキモノハ其少

									臨機	
									第十四條	
									横置汽機吸金ノ中心ヲ看守シ必要ヲ認ムルトキハ 「ライナー」ヲ挿入シテ中心ヲ正スコト	ナキモノト取替ヘ置クハシ
									第十五條	
									滑車面兼磨擦模様音御意注意シ必要ナルト キハ滑車背面ノ調理環ヲ正スコト	
									第十六條	
									曲肱銓裏銅ノ調整(運転中死点經過ノ音御意ヲ詳 キ之ニ油ヲ注キテ試シ必要ヲ認ムルトキ)	
									第十九條	
									接合鋲及主擔床ノ螺釘ノ運転中灌水ヲ爲シタルトキ ハ接錨後速カニ検査拭淨スルコト	
									第二十條	
									白金屬ノ麻手擦部ノ運転中面部ノ以レク熱シタル疑ア ルトキハ速カニ検査調教スルコト	
									第二十五條	
									焰管ノ端ニ形成ス油滓掃除ノ爲採取ヲ必要トスルト キハ之ヲ行ナコト	

全	第六六條	前項ニ管端ノ薄弱ヲ認メタルトキ管環ヲ懐入スルコト
全	第八九條	汽罐ノ船体ノ鈎合又ハ制規外ニ使用シタルトキハ該汽罐ノ番号、時間及其理由ヲ記註スルコト
全	第九十條	汽罐ノ操作ヲ令賦スルコト平等キラセトキ其理由ヲ記註スルコト
全	第九十一條	推進器及其附近要部附着螺釘ハ渠ノ都度精密ニ検査シ其完備ヲ確カムルコト
全	第九十二條	青銅製推進器ハ流電作用ヲ防ク爲メ渠ノ際船体ト同一回数ヲ塗ルコト
全	第九十三條	艦艇入渠ノ際「キングストン」余其他海水ニ通ズル余嘴ヲ検査シ其緊密ヲ確カムルコト又推進器及海水通ズル諸余嘴ノ孔口ニ於テ亞鉛防護手ヲ検査シ不良ノモノヲ取替ユルコト

6

臨時 第五百七條	艦船出渠ノ際海水ニ通テ諸弁嘴ハ入水前總テ閉鎖セラルタルヤ否ヤヲ確カムコト
全 第四百八條	安全弁及其ノ屬具ハ屢々検査シ其ノ動作ノ良好ナルコトヲ確認スルコトヲ以テ汽罐ヲ使用セザルキ其ノ釀汽前ニ必ス安全弁検査指ノ量ノ分鮮検査ヲ度々行ヒ殊ニ彈機ヲ有効ナル状態保
全 第五百九條	存スルコト
全 第五百十條	汽筒汽罐其他機械ノ諸部ニ備ヘテ掌柱等ハ衝突ノ激動ニ依リテ位置ノ轉移ヲ生ルコトナカラムル為メ度々検査シ常ニ有効ノ状ヲ保タシムヘシ
全 第五百十一條	石炭積入際ニ必ス石炭産地、田場積入年月並ニ噸ノ價格ヲ聞キ知シ置クコト
全 第五百十二條	燃料ヲ節約スル爲メ豫備セル諸器具ハ常ニ之レヲ使用スヘシ若シ之レヲ使用セザルキ其理由ヲ記註スコト

部 第一局 第二局 第三局 文庫



軍令部

本隊日令第七號
 七月二十六日
 於青森初瀬

一、本隊作業豫定表（本隊日令第三号附表）中左如ク改定ス

内田常備艦隊司令長官代理

月日	船名	所在	初瀬	三笠	朝日	宮古	記	事
七月廿九日	全三十日	灣	艦砲射撃 (B)	部署教育	水雷發射 (C)			
全三十日	全三十日	内	水雷發射 (C)	一般操練	全右 (C)			
八月一日	全二日	内	全右 (C)		全右 (B)			
全二日	全三日	青	(午前) 將校兵棋演習 其他週課通り					
全三日	全三日	森	週課通り					
								半舷上陸ヲ許ス

二、艦砲射撃及水雷發射ノ爲メ出港スル艦ハ其出艦ノ時刻及作業實施ノ要領ヲ筆記シ豫メ報告スヘシ

次間各艦青森
 錨地ニ碇泊スル各
 艦ニ隨意トス

旗秘第二〇九號ニ
旗秘第二〇九號艦隊命令第一項軍隊區令中並
行動豫定表中本隊ヨリ富士ヲ除キ三笠ヲ加フ

明治三十五年七月廿六日

内田常備艦司令長官代理

部

長 濟

次 長 濟

第三局

薩 摩

本隊日令第二號

第三局

細 谷

副 官

高 橋

三十五年七月十三日
於山田港旗艦初瀬

常備艦隊司令長官代理内田正敏

一 本隊ハ明十四日午前九時当港出發室蘭ニ向フ其艦隊番

号及速力、舵角前ニ全シ

二 今日午後適宜艦隊運動ヲ為シ日没ヨリ十二時迄、間ニ旗

信ヲ以テ警戒戒航行演習ヲ施行ス

但シ當日、艦隊運動開始ヨリ結了迄機関回轉數ノ変化ヲ

別表ノ通り記入シテ差出スマシ

三 右演習ハ主トシテ左ノ數項ヲ目的トシテ施行ス

(一) 旗艦外航海燈及諸燈火ヲ掩蔽シ各艦ハ艦尾速力燈及

舵柄信号燈ノミニテ航海スルニ習熟スルコト

(二) 旗艦ニ倣ヒ探海燈ノ莫減ヲ迅速ニ且ツ探照區域ヲ確

守スルニ慣練スルコト

(三) 旗艦通常速力燈ヲ莫出セハ各艦ハ之ニ倣ヒ通常ノ如ク諸

燈ヲ莫出シ次テ半速ニ減シ火箭一發ニテ初瀬、富士

ハ其儘前進シ朝日ハ列外ニ出テ毎ニ後方ヨリ本隊ノ右
左ニ千米突以外ニ出沒シ双方探海燈ヲ以テ相照ラシ夜
中戰鬥操練及夜中照準ヲ訓練スルコト
其他哨兵勤務及夜中操練等各艦適宜訓練ス

四、十五日午前室蘭港口附近ニ至ラハ列ヲ解ク之ヨリ各艦ハ便宜
内筒砲射撃ヲ施行シ午後三時迄ニ隨意入港豫定錨地ニ碇
泊ス

五、天候ノ異変ニ應スル集會臭ヲ室蘭港ト定ム但シ濃霧ニ遭
フトキハ可成隊列ヲ保持スルヲ要ス

六、室蘭碇泊中石炭搭載豫定日割次ノ如シ

十六日 初瀬 十七日 朝日 十八日 富士

七、石炭積込方ニ関シテハ艦算ノ手ヲ以テスルカ或ハ石炭入夫ニ依ル
カハ各艦長ノ任意ト雖モ艦算ヲシテ石炭積込ノ事業ニ慣レシ
メ且ツコンパレー、トランスポーターノ使用ニ習ハシムルヲ力ム

回轉数	幾令時刻	時間	記事
56	8 ^五 -5 ^三	0-16 ^時 分	
58	8-21	0-41	
52	9-2	0-3	
60	9-5		十大長巻針 ^為 後レタリ

別表

第一局

第二局

第三局



本隊日令第八号

於青森初瀬

内田常備艦隊司令長官代理

本隊作業豫定表(本隊日令第三号附表)中自四日以後分左如ク改定ス

月日	艦名	所在	初瀬	三笠	朝日	宮古	記	事
八月四日	青	青森	小銃射撃	部署教育 若ク一般操練	一般操練			
八月五日	全	森	旗信一般操練	右全	旗信一般操練			
八月六日	全	大	野砲射撃並艦載水雷艇水雷發射 (三笠) 舵角測定					早朝大湊回航
八月七日	全	湊	將校兵棋演習 其他週課通り					
八月八日	全	函	各艦陸戰銃隊野砲隊陸上操練					
八月十日	全	館	函館回航(途上艦隊運動) 午前一般操練					半舷上陸演習
八月十一日	全	館	午前一般操練					
八月十三日	全	室蘭	室蘭回航(途上艦隊運動) 一般操練					

Handwritten notes and signatures on the right margin, including a large checkmark and a circular seal.

軍令部
高志

本隊日令第九號

一局
✓

次長



第一局



第二局



第三局



出仕將校



八月六日
於青森縣
内田常備艦隊司令長官代理

一、九月初旬、隱岐列島附近ニ於テ聯合夏季演習施行豫定

二、演習規則第二條據リ早崎三笠艦長ヲ其指揮官トス

三、演習ノ計畫對シテ本職ハ左ノ希望ヲ有ス

(イ) 演習日數三日ヲ超ハサルコト

(ロ) 演習ノ構成ハ簡單ニシテ適切ナルヲ可トス故ニ想定ハ必

スレモ演習ヲ通シテ終始貫スルヲ須ヒス要ハ四季演習

ノ目的タル兵員ヲシテ戰鬥ノ諸働作ニ習熟セシムルニアル

コト

(ハ) 實施ノ作業中ニ水道閘塞、水雷艇(艦載水雷艇ヲ

以テ擬ス)ノ攻撃手防禦、反裝水雷電路ヲ應用シテ

假製水雷ノ敷設等ヲ含有スルコト

四、艦艇 (二) 前項、諸作業ハ各艦長ニ分擔計画セシムルコト
自最大速力ヲ存、如ク制限ス

戰艦 八節

通報艦 十二節

水雷艇 十二節

五、各艦ノ使用スル空放數ハ左ノ程度ニ依ル

十二吋砲 一門ニ付 二發以内

十二吋以上ノ砲 全 五發以内

輕速射砲 全 七發以内

六、演習指揮官ニ來ル十七日迄ニ右ニ對スル計画方案ヲ書ク

提出スヘシ

三月十一日

三月十一日艦隊日令

於横須賀港旗艦初瀬 角田常備艦隊司令長官

次長

一、十二日午後一時三十分夏島附近、於テ鉄板標的

ニ對シ朱氏十四号甲斐形水雷ヲ發射ス其要領裏

ニ清水ニ於テ示シタル通り

第一局

二、十三日午前八時十分ヨリ浪速終テ高雄ノ臨時檢閲

ヲ施行ス其間本職ノ將旗ヲ檢閲中、艦ニ掲

第二局

第三局

海令 第四之号

軍令部

第一局

第二局



旗普第一三。一号ノ三

水雷薬庫注水装置ノ取扱
ハ總テ旗普第一三

一ノ号彈薬庫注水装置ノ取扱
心得ニ準ル儀

ト心得ヘシ

明治三十五年七月廿九日

常備艦隊司令長官代理内田正敏



艦隊日令



明治三十五年一月十八日
於横濱海軍工廠初瀬

角田常備艦隊司令長官

一 来月廿五日軍艦初瀬朝日八雲艦等ノ水雷艦各一隻

ヲ以テ水雷艦隊ヲ編制シ小柴沖ニ至リ旧式水雷艦標的
ト別紙要領ニ従フテ連合艦砲射撃ヲ施行セム

二 水雷艦ハ今日午前八時迄ニ水雷軍装ヲ整ヘ旗艦ヲ集合セ
シムヘシ

但シ各艦狙撃手トシテ定員外五名ヲ兼組ミシ小銃実包百三
十發ヲ携帶セムヘシ

三 水雷艦隊司令ハ初瀬砲術長櫻井ヲ佐トス

四 各艦ハ便宜ノ舟艇ヲ現場ニ派出シ見学者ノ用ニ供スルコトヲ得

五 當日服装ハ通常軍服外套著用ノコト又各自晝食ヲ携帶
スヘシ

六 當日天候不良ノ時ハ順延ノコト但シ旗艦ヨリ之ヲ信捕ス

附令

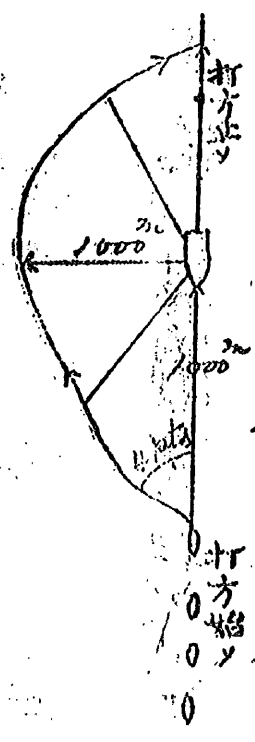
一 艦ハ旧式水雷艇内挿入スヘキ浮泛材料トシテ當分樽類ヲ保存シ置キ廿四日之レヲ旧式水雷艇迄運搬シ艦隊司令ニ交付スヘシ

二 艦隊司令ハ二十四日中ニ標的設備ヲ整へ横濱横濱航スヘシ標的設備ニ関スル希望ハ口頭ヲ以テ訓示ス

三 艦隊司令ハ標的設備ニ関シ人員材料ノ補助ヲ要スルトモハ直接各艦ニ要求スヘシ

聯合艦隊射擊要領

- 一 本射擊演習は、射擊對水雷艇、戰艦、撥し艇、實地的訓練ヲ計ルト全時ニ集彈ノ狀況命中ノ考案ヲ調査シ他日ノ參考ヲ資スルヲ目的トス
- 二 本射擊ニ使用スル彈丸ハ演習用彈ヲ用井其數ハ戰艦射擊年額彈數内ニ限ルヘシ
- 三 但シ小銃彈系ハ特種射擊用ノ分ヲ以テ之ニ當ツ
- 四 標的タル水雷艇ハ當日風浪現況ニ依テ最モ都合ヨキ位置ニ破置スルヲモトメ
- 五 艦載水雷艇ハ戰艦隊形(軍縱陣)ヲ制リ左四ノ通リニ該標的ノ周圍ヲ運動シ其間司令艇ノ信号ヲ以テ適宜艦砲射撃ヲ繼續スルト同時ニ狙撃手ハ一齊射撃ヲ又ハ急放火ヲ行フヘシ



五 艦載水雷艇ハ戰艦速力ハ十節トス
 六 射擊ハ一回ヲ以テ結了スルヲモトメテ雖モ成績調査ノ結果ハ尚

- 彈數、有餘アルトキハ、一面射撃ヲ行フモノトス
- 七、水雷艇隊司令ハ射撃了ラバ直ニ標的ニ近寄リ彈痕ヲ調査其成績ヲ報告スヘシ
- 八、水雷艇隊司令ハ一面ノ射撃中ト雖モ標的ノ現況ヲヨリテハ直ニ發射ヲ停止シ標的ニ近寄リ成績ヲ調査スルト同時ニ應急標的ヲ失ハサル様注意スルヲ要ス
- 九、水雷艇隊司令、調査了ルハ後ニヨリテ其他ノ舟艇ハ標的ニ近寄ルヲ許サズ
- 十、水雷艇隊司令ハ射撃成績ヲ調製シ一月盡四造ニ呈出スヘシ且シ成績表ニ精細ナル圖面ヲ添ヘ之ニ彈着點ヲ印記シ其實通ノ狀況ヨリ効果ノ程度ヲ判断シ意見ヲ付シ又標的最後ノ狀況ヲ詳記スルヲ要ス
- 其標的水雷艇ハ射撃終結後艇隊司令ニ於テ直ニ長浦港ニ還送スヘシ

軍令部

第一局

第二局

艦

軍令部

旗秘第一七〇號

自今麾下軍艦、水雷艇防禦部署及其

操練ヲ廢止シ敵ノ水雷艇ト對戦スルハ航泊ト

晝夜トヲ問ハス戰鬥部署ニ依ルコトニ改ム但シ水

雷艇防禦ノ号音ハ之ヲ存シ戰鬥中水雷艇ノ

ミラ防禦スル場合ニ吹用セシム

追テ從來水雷艇ヲ防禦スルトキ重砲算ノ一

部ニ執銃セシムルコトヲリタルモ自今重砲ヲモ

之ヲ使用シ又彈種ハ主トシテ鍛鋼彈徹甲彈ヲ混用スルモ可ナリ

ヲ用アルモノトス

明治三十五年六月四日

常備艦隊司令長官角田秀松

永用

丁中巻

本隊日令第十號

一 局 二 六

第一局

文庫

細分

函館

八月十一日

函館艦初瀬

内田常備艦隊司令長官代理

八月十日ヨリ各艦左ノ順序ニ依リ室蘭港ニ於テ石

第二局

炭搭載ヲナスベシ

第一日 初瀬 第二日 三笠 第三日 朝日

第三局

文庫

ニ石炭ハ各艦可成丈ヲ満載スルヲ要ス而シテ乗員ノ手

ヲ以テスルト否トハ各艦ノ便宜ニ任スト虽モ「テンプレート」

「ニスホルター」ハ必ズ之ヲ使用スベシ

三、室蘭碇泊中初瀬、朝日ハ艇砲射撃、探海掃海及

其他水雷ニ関スル操練ヲ施行スベシ

探海掃海操練ニハ消耗兵器年額ノ三分一已内

ヲ消耗スルコトヲ得

四、三笠ハ便宜ノ操練ヲ施行スベシ

五、本隊作業豫定表（本隊日令第三号附表）中十四
日十五日、分ハ之ヲ削除ス
六、十七日茂青森廻航ノ豫定

1169